

エルサルバドル政治経済月報 (2023 年 5 月分)

2023 年 6 月
在エルサルバドル大使館

内政

1. ワクチンメカセンターの医療システムデジタル化事務所への変更（報道：エル・ディアリオ・デ・オイ及びラ・プレンサ・グラフィカ）

アラビ保健大臣は、インタビューにおいて、サンサルバドルのワクチンメカセンターは既にワクチン接種センターとしての役目を終え、現在は医療システムに係る技術チームによって、医療システムデジタル化という保健省にとって最も大きな課題の一つに取り組む事務所として活用されていると述べた。1,930 万米ドルをかけてエルサルバドル病院の一施設として作られたワクチンメカセンターは、その必要性を疑問視する専門家もいたが、1 年余りの間、ワクチン接種センターとして使用された。

2. 2024 年大統領選挙における野党の統一候補擁立断念の動き（報道：主要各紙）

5 月 23 日、野党 4 党（国民共和同盟（ARENA）、ファラバンド民族解放戦線（FMLN）、Nuestro Tiempo 党及び Vamos 党）は、2024 年当国大統領選挙における統一候補擁立に係る協議を行った。二大野党のひとつである ARENA（右派）のガルシア同党執行部総裁は、もう一方の FMLN（左派）が擁立する大統領候補はイデオロギーの違いから支持することはできないとの立場を示し、同様にオルティス FMLN 党首は、ARENA と同盟を結ぶことは党則により禁じられている旨発言した。

3. 大統領府人権・表現の自由担当補佐官のポスト設立及び任命（報道：主要各紙）

5 月 24 日、ブケレ大統領は、コロンビア人のアルベルト・グスマン氏を大統領府人権・表現の自由担当補佐官に任命した。大統領令によれば、大統領府人権・表現の自由担当補佐官は、全ての国民がサイバーセキュリティの保護を受け、ネット上での人権及び表現の自由が守られるべく、コネクティビティ及びデジタル技術の向上となるプロジェクトを立案・支援することを目的としている。さらに当国政府は、同官職の任務として、国際人権機関などが当国に対して発出する勧告の履行をフォローアップするとともに、国際社会との対話を維持すること、また人権問題において国際社会と対話を続けることであるとした。

4. フネス元大統領及びムンギア元国防大臣に対する有罪判決（報道：主要各紙）

5 月 29 日、サンサルバドル特別裁判所は、ニカラグアに亡命中のフネス元大統領（任期：2009－2014）及びムンギア元国防大臣がギャング集団（バリオ 18 及びマラ・サルバトルチャ（MS））に対し、2011 年 11 月及び 2013 年 5 月中旬に、政府として同集団に便宜を図る見返りとして、殺人を減らす取り決め（tregua）を交わしたとして有罪判決を下した。同特別裁判所は、フネス元大統領には共謀罪で 8 年、義務違反罪で 6 年、計 14 年の懲役刑を宣告し、またムンギア元国防大臣には共謀罪で 8 年、義務違反罪で 6 年、恣意的な権力行使で 4 年、計 18 年の懲役刑を言い渡した。

外交

1. ミラ外務副大臣のインド訪問（外務省プレスリリース）

ミラ外務副大臣はインドを訪問し、レーキー・インド文化担当閣外大臣、「太陽に関する国際的な同盟（ISA）」の代表者及び「災害にレジリエントなインフラ連合（CDRI）」の代表者と協議した。なお、ISAは、2015年11月のCOP21開催期間中に、国際社会における太陽エネルギーの飛躍的な普及、拡大を目的とする日射量の多い国の間での協力プラットフォームとして、インド政府が立ち上げたイニシアティブである。

2. 韓国・エルサルバドル両国の国会議長等による相互訪問（報道：ディアリオ・エルサルバドル紙）

（1）5月8日、韓国を訪問したカストロ国会議長は、キム・ジンピョ韓国国会議長と両国の国会議長の関心あるテーマについて会談を行った。その際、カストロ国会議長は、キム国会議長にブケレ政権下でのエルサルバドルの変化を知ってもらうために当国を訪問するよう招待した。

（2）5月22日付の「ディアリオ・エルサルバドル」紙は、キム・ヨンジュ韓国国会副議長が当国を訪問した際に行われた単独インタビュー記事を掲載し、同副議長は当国滞在中にブケレ大統領、カストロ国会議長及びSICA事務局長と会談を行った旨述べたほか、ブケレ大統領を若く力量のあるリーダーで治安改善に積極的に取り組んでいる旨評価した。

経済

1. フィッチ社による格付評価（報道：主要各紙）

（1）5月5日、世界三大格付会社の1つであるフィッチ・レーティング社（以下、フィッチ社）は、当国の長期外貨建て債発行体デフォルト格付（IDR）を「CC」から二段階下の（注：一段階下は「C」）「RD」（部分的デフォルト）に格下げした後、同日中に「RD」から「CC」の一段階上の「CCC+」に格上げし直した。

（2）フィッチ社が当国の格付を「CC」から「RD」に格下げした理由は、当国政府が2017年以前に発行された年金出資証券（CIP）の償還期限である2022年末を前に、同年12月20日に可決された年金制度改革法案で、政府は「CIPの代わりとなる証券を法案可決後から120日以内に提示する」とされていたにもかかわらず、それが期日までに提示されなかったためである。

（3）他方で、フィッチ社は、同日中に当国の格付評価を「RD」から「CCC+」に格上げし直した理由は、同5日に当国政府がCIPの代わりとなる3つの証券を発表するとともに、2023年1月に償還期限を迎えていた8億ドルのユーロ債の償還が実施されたためとした。

2. 2023年1月から4月までの郷里送金額及び輸出額の発表（報道：エル・ムンド紙）

エルサルバドル中銀（BCR）は、2023年1月から4月までの郷里送金額が25億7,830万ドル（前年同期比プラス4.2%）、輸出額が22億6,070万ドル（前年同期比マイナス7.4%）を記録した旨発表、郷里送金額が輸出額を上回る結果となった。

3. エルサルバドル輸出投資促進庁（Invest）の設立に係る動き（報道：エル・ムンド紙）

5月23日、当国経済省のイニシアティブの下、当国国会にエルサルバドル輸出投資促進庁（Agencia de Promoción de Inversiones y Exportaciones de El Salvador、通称Invest）の設立案が提出された。同法案によれば、既存のエルサルバドル輸出・投資促進機関（PROESA）は解体され、今後、InvestがPROESAの役割を担う。